

2017年3月期 第1四半期 決算概要

テルモ株式会社
常務執行役員 IR・広報室担当
北畠 一明

2016年8月4日

2017年3月期第1四半期決算概要について説明いたします。

決算総括：為替の影響下、営業利益10%増達成

	(億円)			
	15年度Q1	16年度Q1	増減率	為替除く 増減率
売上高	1,287	1,245	-3%	+5%
粗利益	690 (53.7%)	698 (56.0%)	+1%	+11%
一般管理費	417 (32.5%)	403 (32.3%)	-3%	+6%
研究開発費	79 (6.1%)	81 (6.5%)	+3%	+10%
営業利益	194 (15.1%)	214 (17.2%)	+10%	+22%
(のれん等償却除く)	245 (19.1%)	259 (20.8%)	+6%	+17%
経常利益	206 (16.0%)	151 (12.1%)	-27%	
純利益	145 (11.3%)	101 (8.1%)	-30%	

期中平均レート	USD	121円	108円
	EUR	134円	122円

- 売上高 : 為替除くベースでは、日本・海外ともプラス伸長、特にカテーテルが牽引
- 営業利益 : カテーテルの売上拡大とTCVS品質システム改善コスト減少により、二桁増益
- 経常利益 : 前年同期の為替差益（18億）に対し、今年度は差損（55億）
- 純利益 : 営業外の為替の影響を除くと、4%増益

 TERUMO

2/24

当四半期の決算の総括です。円高の影響を受けて減収となる中、営業利益で10%の増益を達成したことが当四半期の最大のポイントです。

売上高は前年同期比3%減となりましたが、為替を除くベースでは5%の増収となりました。為替の影響を除くと、好調なカテーテル事業が牽引し、日本・海外ともに増収となりました。営業利益は、減収にもかかわらず10%の増益となりました。

一般管理費は前年同期比3%減となりましたが、為替の影響を除くと6%増となり、売上の伸びを上回りました。研究開発費も3%増、為替の影響を除くと10%増となり、売上の伸びを上回りました。したがって、増益要因は、粗利益の増加です。この点については、後ほど詳しく説明いたします。

営業利益以下の項目については、次のページで説明いたします。

営業外・特損益・法人税

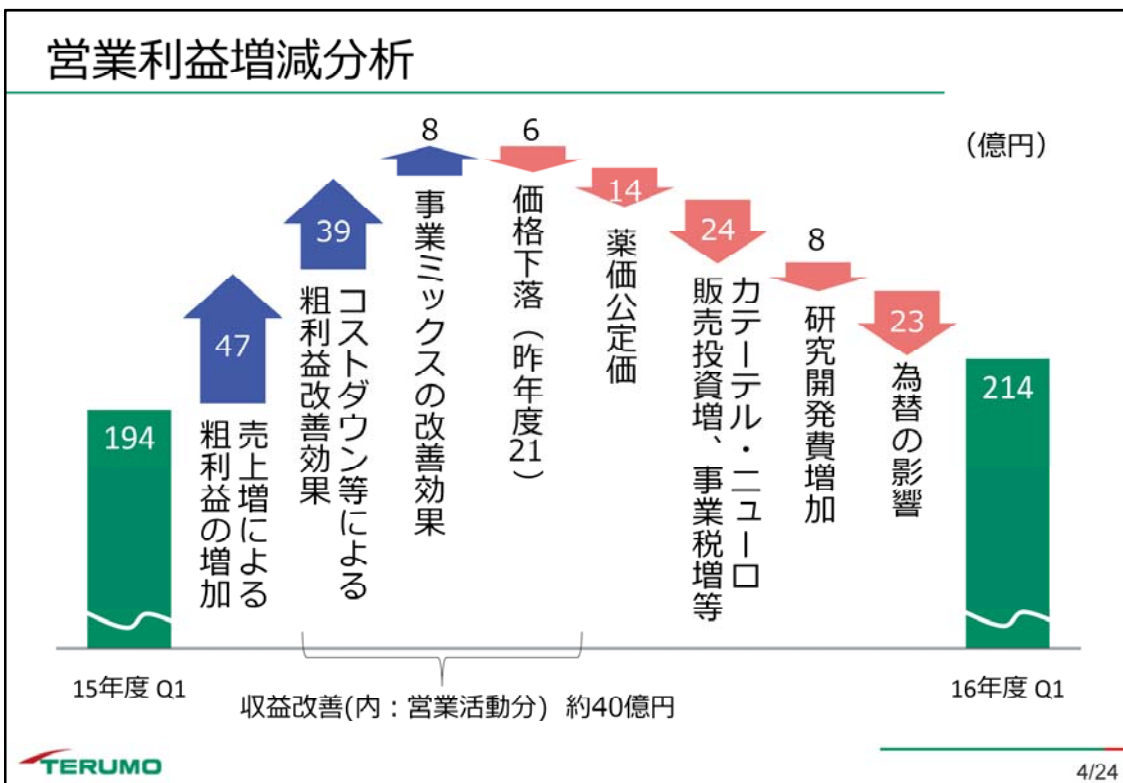
(億円)

	15年度Q1	16年度Q1	
営業外損益	11	-62	為替 15年度 +18 16年度 -55
経常利益	206	151	前同比 -27%
特別損益	+0	-0	
税前利益	206	151	前同比 -27%
法人税等合計 法人税等負担率	61 30%	50 33%	15年度Q1 過年度調整による税負担率低下
純利益	145	101	前同比 -30%



3/24

営業外損益については、前年同期は円安により為替差益18億円を計上しましたが、当四半期は円高の影響により為替差損55億円を計上しました。その結果、経常利益、税前利益は前年同期比27%減、純利益も30%減となりました。



営業利益の増減分析です。

最初に減益要因を説明いたします。為替の影響額は、前年同期が4億円のプラスでしたが、当四半期は円高の影響でマイナス23億円となりました。

費用については、研究開発費の増加でマイナス8億円、カテーテル・ニューロバスキュラー事業における販売投資の増加等でマイナス24億円となりました。薬価・公定価改定の影響額はマイナス14億円となりました。為替の影響額を除く費用の発生状況については、概ね期初の想定通りでした。

増益要因は、販売量の増加等など、売上増による粗利益の増加でプラス47億円となりました。カテーテル事業の売上がグローバルで好調に推移し、為替の影響を除くと10%を超える伸長となりました。これが粗利益の増加に大きく貢献しています。

価格下落は、前年同期は21億円のマイナスに対し、当四半期は6億円のマイナスとなり、下落幅が15億円縮小しました。これは当社の営業努力が功を奏していることを示しています。コストダウン等による粗利益改善効果プラス39億円、事業ミックスの改善効果プラス8億円、価格下落の縮小15億円を合計した62億円が収益改善による増益額です。この62億円の内、原価改善や増産効果などを除いた約40億円が営業活動による改善額です。次のページで詳細を説明いたします。

営業活動による収益改善

■ 心臓血管 アルチマスターによる収益拡大 +15億円

- ノボリからのシフトによる価格アップ
- 欧州：高価格市場への集中投下

■ 心臓血管 アクセスによる収益拡大 +9億円

- 米州：TRI用アクセス製品へのシフト
- 欧州：収益性の高いアクセス分野への注力

■ ホスピタル 収益性重視の運営 +4億円

- アジア・中南米：低収益製品（シリンジ等）の値上
- 日本・アジア：高付加価値品（輸液システム等）へシフト



5/24

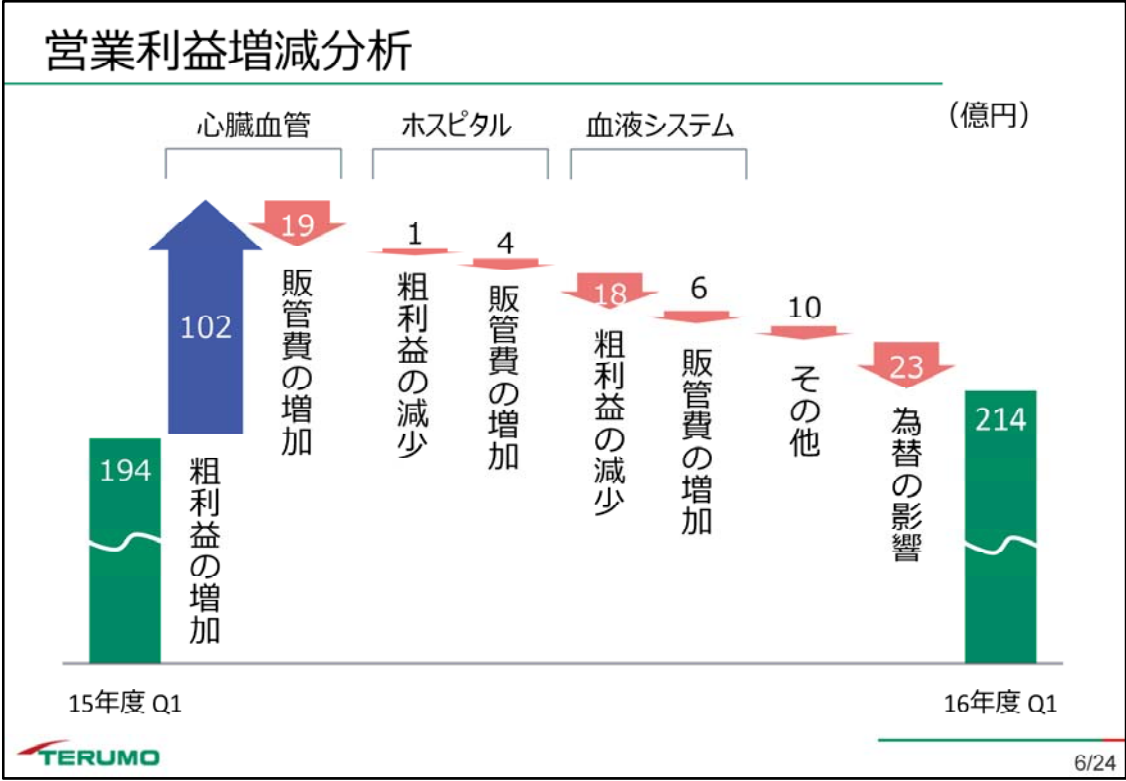
心臓血管カンパニーでは、主に2つの製品分野において、営業活動による収益改善が進んでいます。

一つは、薬剤溶出型冠動脈ステント（DES）のアルチマスターによる収益拡大で15億円の効果が出ています。旧世代のDESであるノボリの価格が低下する一方、新世代のDESであるアルチマスターは販売価格がノボリよりも高く、ローンチ後の販売価格の下がり方もノボリよりも緩やかです。したがって、アルチマスターへのシフトが収益拡大に大きく貢献しています。また、欧州では、より価格の高い国に販売リソースを集中するなど、収益性向上を追求した営業活動も収益拡大に寄与しています。

もう一つは、アクセス製品による収益拡大で、9億円の効果が出ています。米州では、通常のアクセス製品よりも販売価格の高いTRI用製品へのシフトを推進しています。欧州でもDESに比べてマーケティングコストが少ないアクセス製品の販売を強化しており、このような営業活動が収益拡大に貢献しています。

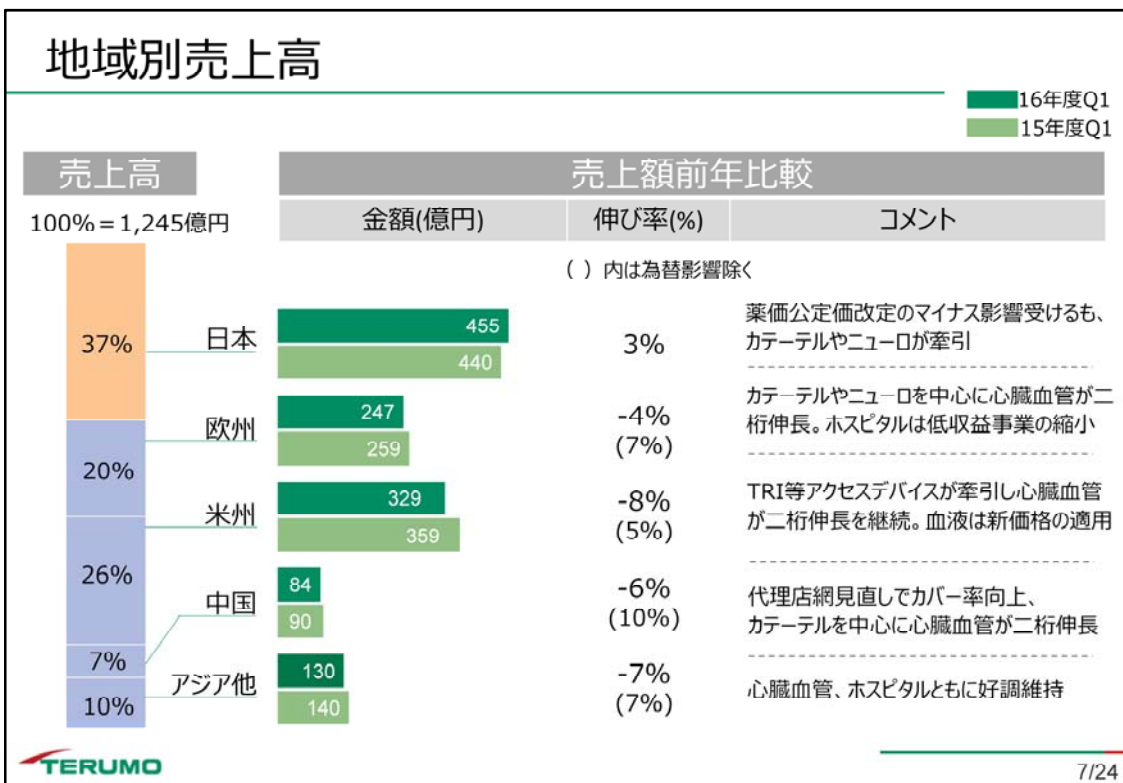
ホスピタルカンパニーでも収益性を重視した運営を行っています。中南米では、低収益事業を縮小する際、製品価格を大幅に上げており、売上が減少する中で収益性が改善しています。アジアでも、タイやインドネシアで、シリンジ等の低収益製品の値上げを実施しました。また、日本、アジアを中心に輸液システム等の高付加価値品の販売を強化し、収益性の改善に努めています。

このような営業活動における努力が粗利の増加に寄与しています。



営業利益の増減をカンパニー別に示します。

為替の影響を除くと、心臓血管カンパニーの粗利益の増加額が102億円となり、全社の粗利益増を牽引しました。一方、ホスピタルカンパニーは1億円のマイナス、血液システムカンパニーも18億円のマイナスとなりました。



地域別の売上高です。

日本では、カテーテルやニューロバスキュラー事業が牽引し、薬価・公定価改定のマイナスの影響をカバーし、前年同期比3%の増収となりました。

海外では、為替の影響で減収となりましたが、為替の影響を除くとは全地域で増収となりました。特にカテーテル事業の売上高は、為替の影響を除くと全地域で二桁伸長となりました。以下、為替の影響を除いた地域別の売上高の増減について説明いたします。

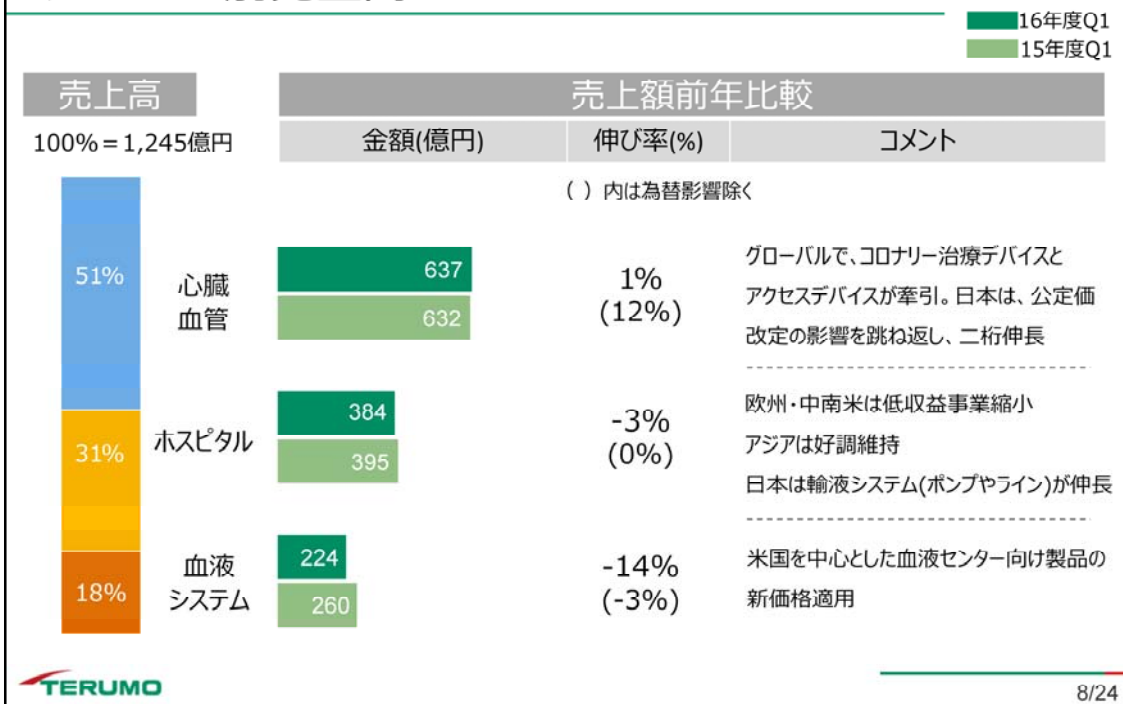
欧州では前年同期比で7%の増収となりました。ホスピタルカンパニーでは低収益事業の縮小を進め、減収となりましたが、カテーテルやニューロバスキュラー事業が牽引し、心臓血管カンパニーの売上高が二桁伸長となりました。

米州では前年同期比5%の増収となりました。TRI等のアクセスデバイスが牽引し、心臓血管カンパニーの売上高が二桁伸長を継続しました。血液システムカンパニーは、米国の血液センターとの契約改定による新価格の適用により減収となりました。

中国では前年同期比10%の増収となりました。代理店網の見直しによりカバー率が向上した結果、心臓血管カンパニーの売上高は、カテーテル事業を中心に好調に推移し、二桁伸長となりました。

アジア他では前年同期比7%の増収となりました。心臓血管カンパニー、ホスピタルカンパニーともに前期に続き好調を維持し、増収となりました。血液システムカンパニーも東南アジアでの売上が伸長しました。(注:「アジア他」の売上高には、東南アジアの他に中東やインド等の売上高も含まれています)

カンパニー別売上高



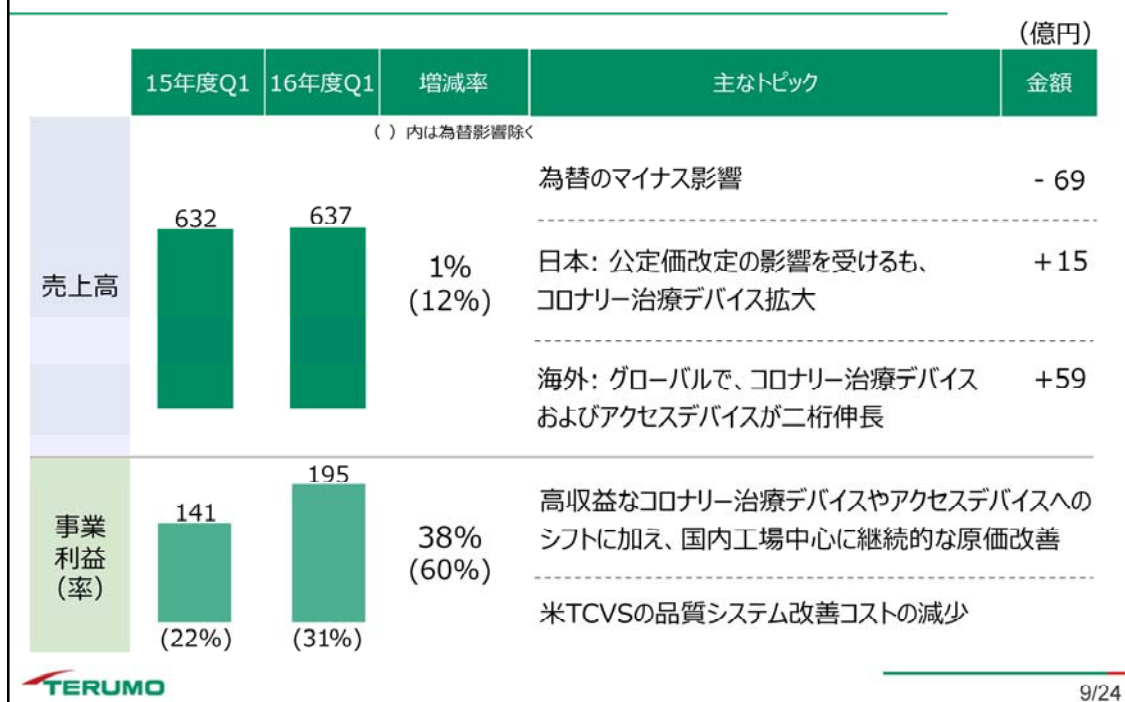
カンパニー別の売上高です。以下、為替の影響を除いた増減について説明いたします。

心臓血管カンパニーは前年同期比12%の増収となりました。ホスピタルカンパニーは前年並みの水準、血液システムカンパニーは3%の減収となりました。

心臓血管カンパニーが想定よりも好調に推移した結果、全社に占める売上構成比が51%となりました。

各カンパニーの業績の詳細については、次ページ以降で説明いたします。

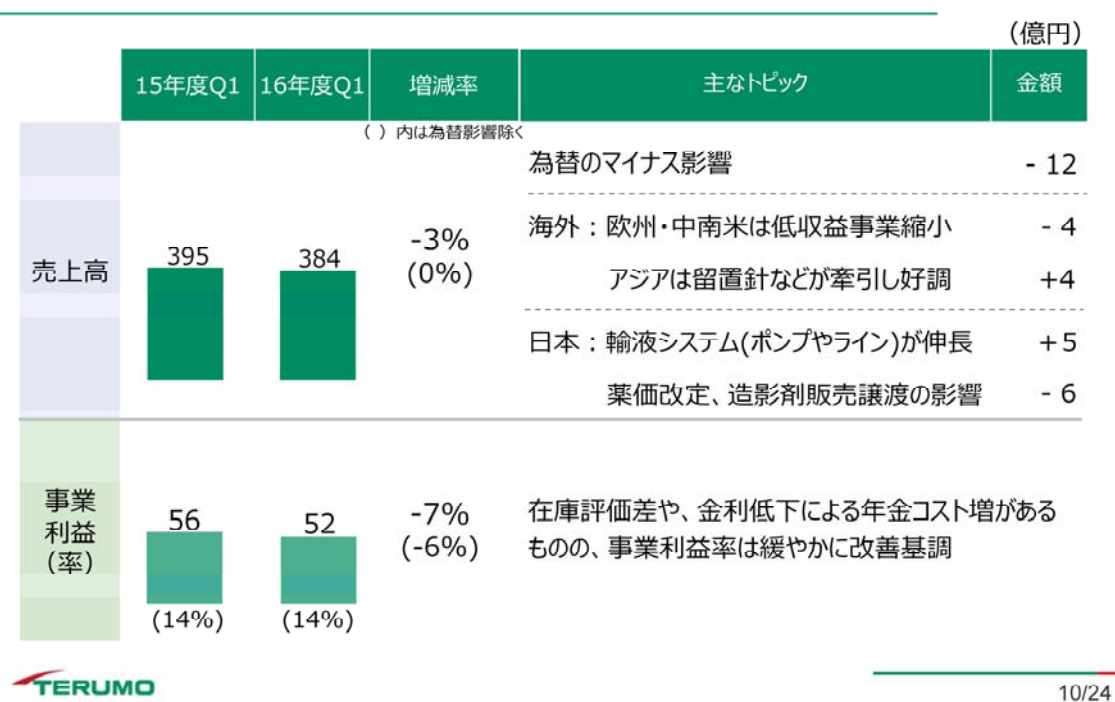
心臓血管カンパニー：公定価改定、為替の影響受けながらも、二桁増益



心臓血管カンパニーの売上高は、為替のマイナス影響が69億円ありましたが、グローバルでDESを中心としたコロナリー治療デバイスとアクセスデバイスの売上が二桁伸長となりました。日本でも、公定価改定の影響を受けながらも、コロナリー治療デバイスの売上が拡大しました。その結果、カンパニー全体では、為替の影響をカバーし、増収を達成しました。

事業利益は、高収益なコロナリー治療デバイスやアクセスデバイスへのシフト、国内工場を中心とした継続的な減価改善、さらに米国のTCVS社（テルモカーディオバスキュラーシステムズ社）の品質システム改善コストの減少等により、為替によるマイナスの影響を受けながらも、前年同期比38%増と大幅な増益を達成しました。

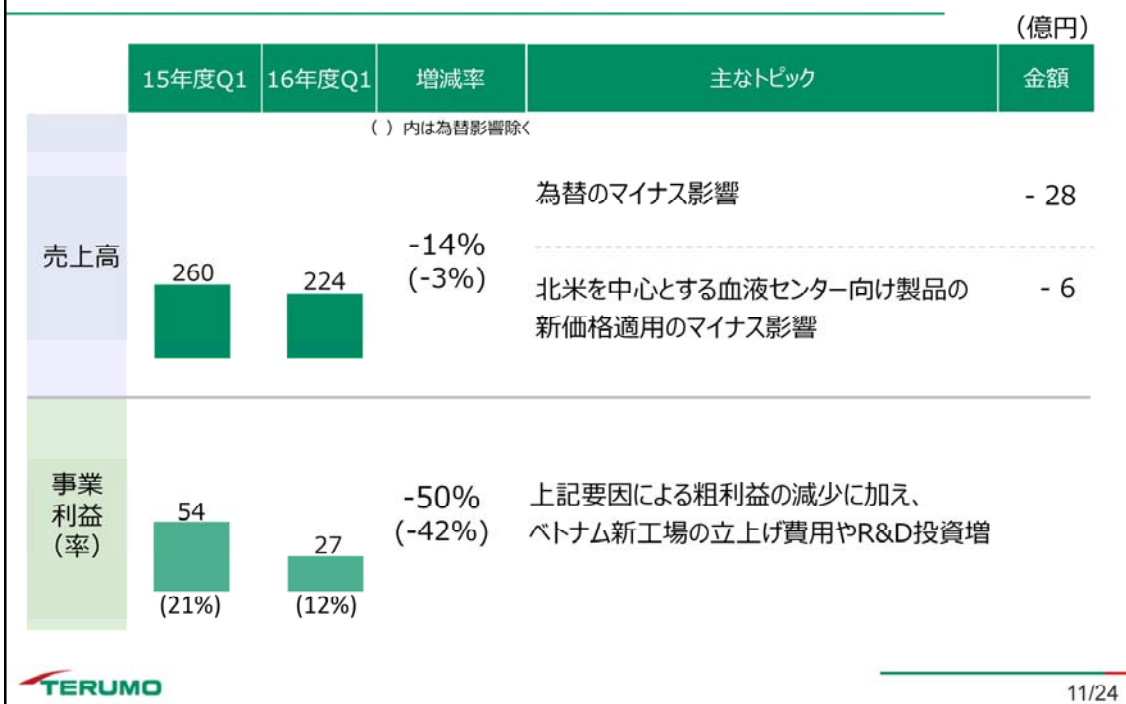
ホスピタル:薬価改定や低収益事業縮小で売上減少も、収益性維持



ホスピタルカンパニーの売上高は、為替の影響を除くと前年並みの水準となりました。欧州・中南米で低収益事業を縮小する中、アジアでは留置針を中心に売上が伸長し、日本でも薬価改定等によるマイナスの影響がある中で、輸液システムなど収益性の高い製品の売上が伸長しました。

事業利益率も、在庫評価差や金利低下による年金コストの増加がありながらも、緩やかな改善基調が続いています。

血液システム：海外・新価格適用や為替のマイナス影響を受け減収減益



血液システムカンパニーの売上高は、為替の影響に加えて、北米を中心に血液センター向けの価格改定によるマイナスの影響等により、14%の減収となりました。

減収に伴う粗利益の減少に加えて、ベトナム新工場の立ち上げによる償却コストの発生、R&D投資が増加し、事業利益は減益となりました。

ベトナム工場の償却コストについては、各国での製品の承認状況に応じて、今後徐々に稼働率を上げていく計画となっており、稼働率の向上に伴い、収益性の改善を見込んでいます。

R&D投資の増加要因は、主に細胞治療分野における開発費用の増加です。製薬会社と契約し、がん治療の選択肢として期待されているCAR-T細胞療法に使用される機器の開発を行っており、この開発費が増加しています。

今後の収益改善要因として、アジア、中南米を中心とした新興国での売上増加と、アフレスス治療、細胞治療分野の成長を見込んでいます。また、昨年は日本での売上高が減少しましたが、当期は増収を見込んでいます。第2四半期以降、血液自動製剤システム「TACSI」の販売が予定されており、成分採血分野でも売上が増える見込みです。

このような状況を踏まえ、血液システムカンパニーの収益は、2016年度上期を底として下期以降には改善に転じると見えています。

主なトピックス

全社

- 史上最低金利で、300億円の社債発行（4月）
- 英バスケテック、英国女王賞(イノベーション賞)を受賞（5月）
- 伊勢志摩サミットに「ハートシート」を出展（5月）
- 新・脳動脈瘤塞栓デバイスの新・Sequent Medical社買収を発表（6月）

事業

- 再生医療等製品「ハートシート」国内発売（5月）
- TCVS社、米FDAによる販売制限が全面解除（6月）
- 国内初スプレー式癒着防止材「アドスプレー」国内承認（6月）



12/24

当四半期の主なトピックスです。

6月に、脳動脈瘤治療の新たな選択肢として期待される新形状塞栓デバイス「WEB」を開発した、米国のSequent Medical社の買収を発表しました。4月に史上最低金利で300億円の社債発行を行っており、低利で買収資金を調達することができました。

16年度パイプライン製品のローンチ状況

領域	製品		地域	ローンチ	領域	製品		地域	ローンチ
心臓	DES (Ultimaster)	◎★	仏	済み	CV	遠心ポンプ装置		亜	
	DES (Ultimaster) 4.0mm品種追加	◎★	日		再生	ハートシート	★	日	済み
イメージング	IVUS	◎★	日		D&D	皮内投与デバイス	★	日	
ペリフェラル	PTAバルーン (膝下, RX/OTW)		日・米・欧	日米済み		癒着防止材	★	日	
	PTAバルーン (膝上・下両用, RX/OTW)		日・米・欧	日米済み	DM	血糖計 (フィットスマイル)		中	
	PTAバルーン (膝上, RX/OTW)		日・米・欧	済み	血液	自動製剤化システム	★	日	
脳	プロテクションデバイス		欧						
オンコロジー	放射線塞栓剤ビーズ (Quirem)	★	欧						

◎ 業績貢献 大、★ イノベーション度 高



TERUMO

13/24

2016年度に予定している製品パイプラインのローンチは、順調に進捗しています。当四半期は、市場規模の大きいフランスでUltimasterをローンチし、増収に貢献しました。

16年度為替の影響：売上・営業利益への影響

通貨別	為替の変動（円） FY15Q1～FY16予想レート				FY16計画	円高時	売上への 影響	営業利益への 影響
	FY15Q1	Q2	Q3	Q4				
USD	121	122	121	115	110	100	-98	+16
EUR	134	136	133	127	125	110	-81	-47
人民元	19.6	19.5	19.0	17.6	17.0	14.8	-25	-11
その他 (アジア・中南米等)	3.7	3.5	3.4	3.2	3.1	2.8	-55	-33
合計	期初ガイダンスへの追加影響 ⇒						-259	-75

2016年度の為替の影響について、売上・営業利益への影響、営業外損益への影響に分けて説明いたします。

まず売上・営業利益への影響です。当期の想定レートは1ドル110円、1ユーロ125円を前提としており、この前提レートでの影響額を試算し、期初に説明いたしました。

第1四半期の期中平均レートは、ドル108円、ユーロ122円と、概ね期初の前接近い水準となりましたが、英国のEU離脱決定等で為替レートは一時大幅な円高となるなど、今後の見通しは不透明な状況です。現時点では想定レートを据え置きますが、今後の状況を踏まえ、修正の必要があると判断した場合には見直します。

今後、更に円高が進んだ場合を想定し、期初に試算した売上・営業利益への影響額に対する追加の影響額を試算しました。第2～第4四半期の9ヶ月で、ドル100円、ユーロ110円の水準が続いた場合、期初に試算した年間の影響額（売上でマイナス310億円、営業利益でマイナス85億円）に加えて、第2～第4四半期で売上でマイナス259億円、営業利益でマイナス75億円の影響が追加で発生すると見えています。

16年度為替の影響：営業外為替差損と今後の対応

■円高の影響で連結で差損(－55億円)発生

- USD FY15末：113.0円 ⇒ FY16Q1末：103.0円 －46億円
- 人民元 FY15末：17.4円 ⇒ FY16Q1末：15.5円 －5億円
- EUR FY15末：128.0円 ⇒ FY16Q1末：114.0円 －3億円
- その他通貨の影響は軽微

■米ドル建て資産を圧縮(FY15末\$600M⇒\$90M)

- Sequent Medical社買収による、ドルポジションの圧縮(7月)
- 海外拠点の資金を活用してグループ内サイトの短縮(Q1)
- 本社からのグループ内ファイナンスを資本注入に切り替え(Q1)

⇒Q2末時点で100円/USD、110円/EURの場合、追加差損は－9億円



15/24

次に営業外損益への影響について説明いたします。

2015年度末から2016年度第1四半期末にかけて急速に円高が進んだ結果、当四半期には55億円の為替差損が発生しました。内、46億円が米ドル建て資産における差損です。

今後の為替差損の発生を減らすため、米ドル建て資産の圧縮を実施しました。Sequent Medical社の買収によりドルポジションが圧縮されたことに加え、海外拠点の資金を活用したグループ内の支払いサイト短縮、本社からのグループ内の貸付金の資本への切り替えを行いました。その結果、2015年度末の残高6億ドルに対し、現在は0.9億ドルにまで圧縮されました。仮に第2四半期末にドル100円、ユーロ110円となった場合でも、追加の差損は9億円程度となる見込みです。

Sequent Medical社の買収

■新・脳動脈瘤塞栓デバイス「WEB」



- 買収金額：最大400億円
- 市場を変える新技術
- 数年後の売上規模100億円

■FY16業績予想への影響（暫定）

（億円）

	影響額
売上高	+ 8
営業利益	- 36
純利益	- 43

- FY16は8月より連結
- 現在PPA作業中



16/24

最後にSequent Medical社の買収について説明いたします。

6月に買収契約を締結し、7月にクロージングしましたので、現時点での業績予想への影響額を試算しました。現在も買収後のPPA（Purchase Price Allocation）が続いていますので、あくまでも現時点での暫定値としてご理解ください。

営業利益でのマイナス36億円は、通常のオペレーションでの赤字に加えて、現時点ののれん償却の発生見込み額、弁護士やファイナンシャルアドバイザー費用など買収関連費用を合計した金額です。同社はベンチャー企業からの次のフェーズへの成長段階にあり、現時点では赤字ですが、数年後の売上規模は100億円を見込んでいます。

これらの要素に加えて、若干の特損を見込んでおり、純利益ではマイナス43億円を見込んでいます。今後マイクロベンション社とオペレーションの統合を進める中で、赤字の圧縮に努めていきます。

以上で説明を終わります。ご清聴ありがとうございました。

參考資料

事業別 地域別売上高と伸長率

(億円)

事業 セグメント	日本	海外					合計
		計	欧州	米州	中国	アジア	
心臓血管	128 (+13%)	509(+11%)	167 (+10%)	214(+11%)	68(+13%)	60(+16%)	637(+12%)
うちカテーテル※	99 (+17%)	409(+13%)	136(+11%)	159 (+14%)	64(+12%)	50(+17%)	508(+14%)
ホスピタル	301 (-0%)	83 (+2%)	21 (-10%)	18 (+3%)	5 (+5%)	40 (+8%)	384 (+0%)
血液システム	25 (-0%)	199 (-3%)	60 (+5%)	97 (-6%)	11 (-3%)	31 (-9%)	224 (-3%)
合計	455 (+3%)	791(+6%)	247 (+7%)	329(+5%)	84 (+10%)	130 (+7%)	1245 (+5%)

※ニューロバスキュラー事業含む

() 内は為替影響除く対前年同期伸長率

販管費

(億円)

	15年度Q1	16年度Q1	増減	増減率	為替除く 増減率
人件費	191	181	-10	- 5%	+5%
販促費	41	38	-3	- 6%	+3%
物流費	28	28	+0	+ 0%	+5%
償却費	69	62	-7	- 10%	+0%
その他	88	94	+6	+ 5%	+13%
一般管理費計	417 (32.5%)	403 (32.3%)	-14	- 3%	+6%
研究開発費	79 (6.1%)	81 (6.5%)	+2	+3%	+10%
販管費合計	496 (38.6%)	484 (38.8%)	-12	- 2%	+6%

() 内は対売上高%

四半期の動き

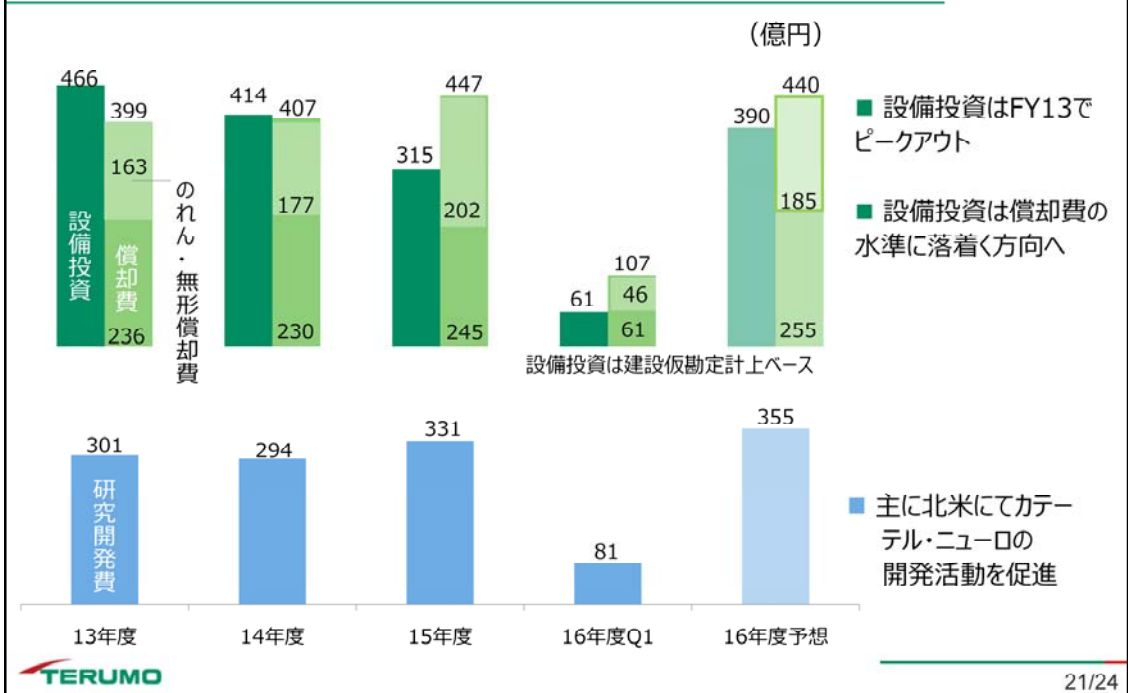
(億円)

	15年度Q1 (4-6月)	Q2 (7-9月)	Q3 (10-12月)	Q4 (1-3月)	16年度Q1 (4-6月)
売上高	1,287	1,305	1,368	1,290	1,245
粗利益	690 (53.7%)	704 (53.9%)	753 (55.0%)	703 (54.4%)	698 (56.0%)
販管費	417 (32.5%)	427 (32.7%)	429 (31.3%)	428 (33.1%)	403 (32.3%)
開発費	79 (6.1%)	80 (6.1%)	74 (5.4%)	99 (7.7%)	81 (6.5%)
営業利益	194 (15.1%)	197 (15.1%)	250 (18.3%)	176 (13.6%)	214 (17.2%)
のれん等償却 除く営業利益	245 (19.1%)	248 (19.0%)	301 (22.0%)	225 (17.4%)	259 (20.8%)
四半期 USD	121円	122円	121円	115円	108円
平均レート EUR	134円	136円	133円	127円	122円

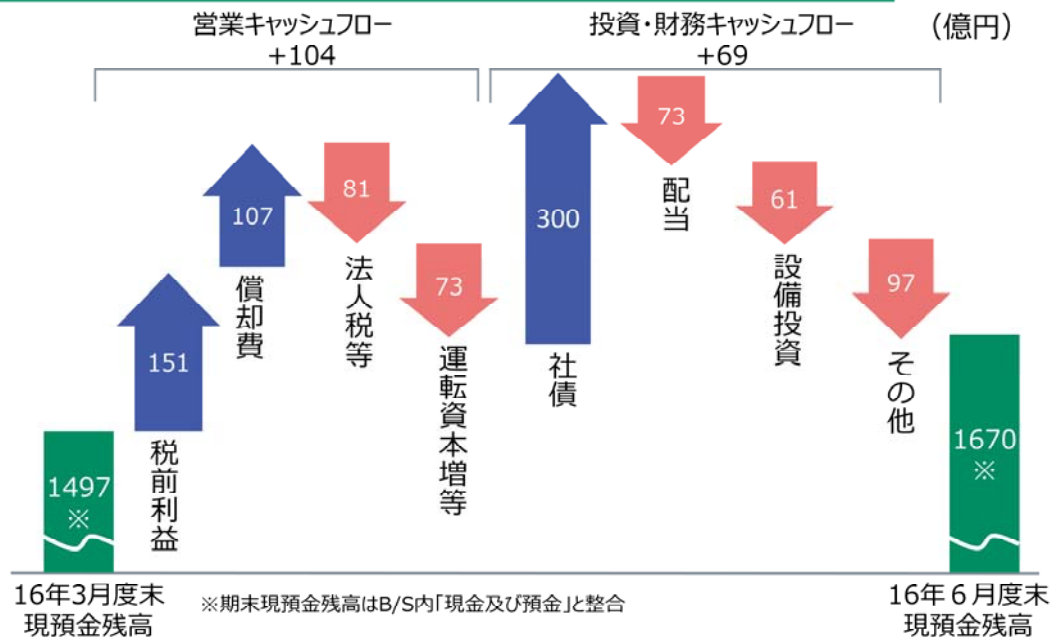


20/24

設備投資と研究開発費



キャッシュフロー



為替感応度

(億円)

	USD		EUR
	のれん等償却 除く	のれん等償却 含む	
売上高	14	14	5
営業利益	0	-2	3

おことわり

テルモの開示資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。様々な要因により、実際の業績等が変動する可能性があることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える重要な要素には、テルモの事業領域を取り巻く経済情勢、為替レートの変動、競争状況などがあります。